

第1回 座談会「防災・減災力の強化と防犯対策」



新しく始まりました特集

「輝く加東をみんなで考える」シリーズ。第1回目は「防災・減災力の強化と防犯対策」と題し、関係分野でご活躍のみなさまにお集まりいただき、市長と座談会の形式でお話を伺いました。

お集まりいただいたのは、加東防犯協会 増田正一会長、株式会社ゴーセン天神工場 和田周作工場長、自主防災組織から上滝野地区の谷口 尚区長、加東消防署の西山修一署長です。司会は、NPO法人はあとネットの前田友子さんに務めていただきました。

(座談会は編集して掲載しております)

司会 防災・防犯の方面でご活躍のみなさんの、活動内容をお聞かせください。

防犯協会・増田会長 (以下、増田氏)



防犯協会は平成20年に設立、5年目の現在、市内12支部、防犯委員約100名で構成しております。主な活動は、春の地域安全運動、夏の少年非行防止活動、秋に全国地域安全運動、年末・年始にも少年非行防止活動を行っており、この夏にもありました加東市花火大会や夏のおどりでもパトロールをしています。

株式会社天神工場 和田工場長 (以下、和田氏)



弊社は昭和26年に合織の織メーカとして創業し、昭和29年の地に天神工場を設立いたしました。以来、50年間地域と共に歩んでまいりました。主要製品はガット、工業

用のミシン糸、釣り糸等を製造・販売しております。

取組内容としては、朝7時30分〜7時50分の間、通学路である工場の前の道路で毎日、交通の立ち番を行っています。当初は月2回の立ち番をしておりましたが、地域からの要望があり、平成20年から全従業員で順番を決め、毎朝2名ずつ、交代で立ち番を実施しています。朝、子どもたちから大きな声であいさつをもらい、反対にこちらが元気をもらおうといった嬉しいこともあります。

もうひとつは昨年の11月に設置いたしました防犯カメラが、道路側も撮影・録画できるようになっていますので、万が一児童のみなさんが交通等トラブルに巻き込まれた際にも役に立てるのではないかと考えております。

上滝野地区谷口区長 (以下、谷口氏)



上滝野地区は、平成16年の台風23号で大変な被害を受けました。それまでは注意喚起等はしていましたが訓練まではしていません。また、平成22年5月

の大雨でも避難所を開設するほどの騒ぎになり、その時はたまたま消防署に務められていた地区役員さんがおられ、土のう積み等色々指導してくれました。何とか乗り切ったのですが、役員は総じて右往左往していたという感じでした。

「これではいかんから、自主防災訓練しようじゃないか」と前区長の丸山保夫さん的一声で、訓練を始めました。三角巾を作ったり、毛布で人を運んだり等の訓練で、内容が濃いか薄いかはわかりませんが、みんな経験のないことを率先してやっています。

加東消防署西山署長 (以下、西山署長)



加東消防署は昭和47年に発足し、41年の間、はしご車や救助工作車、高規格救急車など特殊車両の配備や、救急救命士や内陸では珍しい潜水隊員の育成など消防体制の強化を進めてまいりました。

また、防火・救命や防災に関する講習会や普及啓発活動などを行い、予防体制の強化を図っております。外郭団体には、幼年消防クラブ、婦人

防火クラブ、加東防火安全協会があり、署と連携して安全だいており、市内の消防団のみなさまとも連携を密にしております。

司会 お話を聞かれた気持ち、また加東市での取り組みなどを安田市長にお聞きします。



市長 普段から、自治会のみなさんをはじめ、消防団、防犯協会、交通安全協会など団体、市内事業所のみならず安全安心を守るプロである消防署のそれぞれが、様々な形で防災、防犯への取り組みを心強く、ありがたいと思っています。

イベントでいうと、福知山市の花火大会で悲惨な事故が発生したことを受け、加東市では夏のおどりはじめ、イベントでガソリンを使う発電機の使用の禁止を決めました。やはり、イベントへお越しになる方々に安全に楽しんでもらう、これが大事であると思えます。この取り組みが、一番直近のもので、上滝野地区では防災マップを作成されておられましたね。あれは、すぐ

く良い取り組みだと思います。

谷口氏 はい。作成の際は、地区内をくまなく歩いて、危険な箇所を洗い出しました。避難場所に行くときなど、すぐ助かります。それでも、定期的に更新しないとイケませんので、まだ完成だとは思っていません。

市長 この夏にまちづくりウォークとして、各地区の要望をお聞きして実際に現場を歩かせてもらいました。歩くというのは、本当によくわかりますね。

増田氏 確かに歩いてみると、車で通って気付かなかったことでも、よく気付きます。わたしは社1区なのですが、歩くと最近空き家が増えたな、と感じました。空き家は火の用心などにもよくないように思います。

市長 空き家については市も条例を作り、できるだけ対応していきけるようにしました。相談・指導をしつつ、緊急の場合は代行措置もできるようなっています。ただ、空き家は個人の財産なので、議会で議決をいただくなどしながら、慎重に対応していきたいと思っています。また、谷口区長のお話にもありました、最近の大雨では、市内でもこれまで経験したことのないような被害が出

司会 市民のみなさまへ、特別にお伝えしたいことはどんなことでしょうか。



てきていますから、突発的な大雨にも、もつと目を向けていきたいと思います。台風などは精度の高い情報も早くから入りますが、それでも被害を無くすことは難しいです。ただ、その後の訓練や検討で、次の被害をわずかも少なくすることはできると思います。火災でも、台風でも、同じ状況はないので、被害を減らすためには、日頃の訓練しかないと思います。防犯の面では、センサーライト設置の補助事業を行っています。最近ネット上でも犯罪が多発しますので、子どもたちを守るため、ネット見守り隊などで犯罪に巻き込まれないよう取り組んでいます。

市長 加東市の状況としては、耐震改修が必要な建物の改修率は3.9%と非常に低いという現実もあります。地震は、情報が極めて少ない状態で襲ってきます。情報があっても被害が出るのに、情報がないうところから始まる地震は非常に怖いです。

自助、共助、公助という言葉があります。災害から自分を守る自助、家族や地域で守る共助、自治体など公の支援を表す公助ですが、災害の発生直後の割合はどうしても自助7割、共助2割、公助1割となっております。行政という立場で全力を尽くしますが、日頃からの自助、共助への備えと訓練が、何よりも大切であることを、お伝えしたいと思います。

司会 市長の発言を聞いて、みなさんの日頃の活動についてなど、思うところを率直にお聞かせください。

谷口氏 わたしも一番怖いのは地震だと思います。次に心配なのは、ため池です。地震のため池への決壊が同時に来たらと思うと、とても不安です。上滝野地区は公民館が避難場所になっているのですが、敷地はため池に囲まれています。また、地震であれば加古川にかかる橋が落ちることも考えられますので、最悪の場合、逃げる場所が無くなるなにかと不安です。行政と協力

